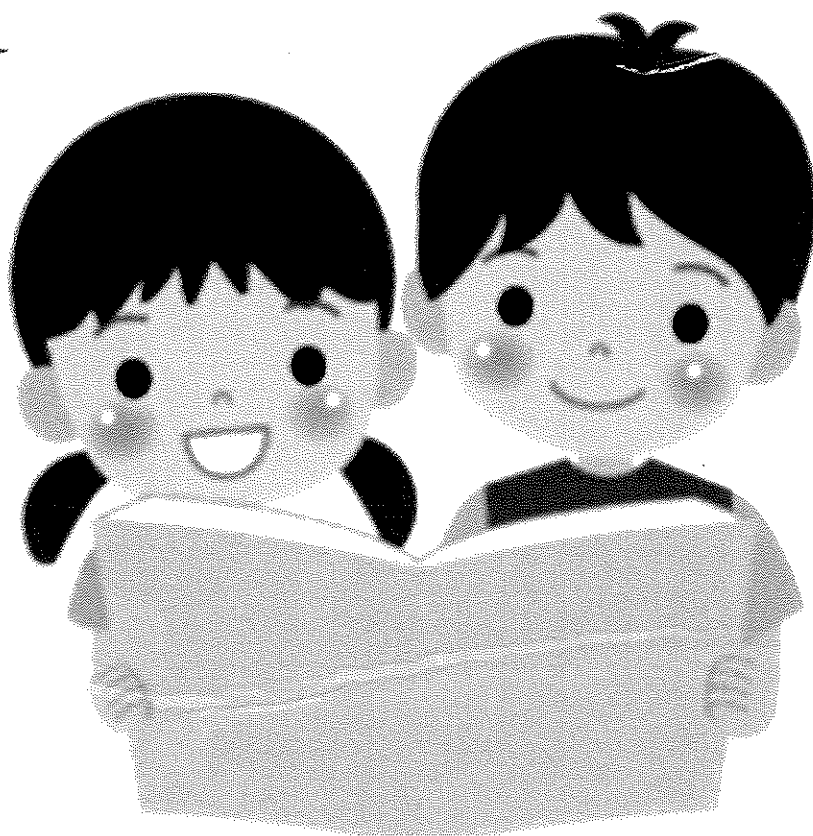


牟岐町子どもの読書活動推進計画

(第三次推進計画)



令和6年5月

牟岐町教育委員会

はじめに

子どもにとって「読書」とは、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力や想像力、基礎的な学力を身に付ける上で、非常に重要なものです。

まだ文字の読めない赤ちゃんへの読み聞かせに始まり、自ら本を読める年齢になっても、読書を通じて未知の世界を知り、想像力を巡らせる「読書」の効用は、家族の絆を深め、子どもの豊かな感性や情操を育むことにあり、子どもの発達段階に応じた読書環境を整備することが大切です。

2000年の子ども読書年、2001年の「子どもの読書活動の推進に関する法律」の制定・施行、2002年の「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」の閣議決定などを基として、子どもの読書が、家庭、保育園、学校、地域社会において根付くように、さまざまな取り組みがなされています。また、読書バリアフリー法の施行や新型コロナウイルス感染症の拡大等、新たな課題にも対応していかなければなりません。

現在、子どもたちを取り巻く生活環境は、インターネット・スマートフォン・電子書籍などの情報メディアの普及、テレビ・DVD・ゲームなどの映像メディアの発達により、子どもたちの活字離れ・読書離れが指摘されています。

本町でも、平成26年6月に「牟岐町子どもの読書活動推進計画」（第一次推進計画）を、平成31年4月に「牟岐町子どもの読書活動推進計画」（第二次推進計画）を策定し、すべての子どもたちが、いつでも、どこでも主体的に読書ができるように環境整備を図ることを目指して、子どもの読書活動推進に取り組んでまいりました。

今回、「第一次推進計画」、「第二次推進計画」の成果と課題を踏まえ、基本的な考え方を引き継ぎながら、「第三次計画」を策定し、今後5年間の本町の子ども読書活動推進の指針として、すべての子どもたちが豊かな心をはぐくみ、生涯にわたり自ら学ぶことができる力を養うため、子どもの読書活動のさらなる充実を、町民総ぐるみで推進してまいります。国の計画の方針にのっとり、不読率の低減や、多様な子どもたちの読書環境の確保、デジタル社会に対応した読書環境の整備、子どもの視点に立った読書活動の推進に重点を置いた計画となっています。

本計画の策定にあたり、牟岐町の子どもたちや保護者の方へアンケートを実施し、これまでの成果や今後の課題を検証いたしました。実りのある、実態に即した読書活動の推進に今後も取り組んで参りたいと考えております。

今後も町民の皆様のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和6年5月

牟岐町教育委員会

教育長 今津 久仁

《目 次》

第1章 計画策定の背景・課題	1
1 子どもの読書活動推進の意義	1
2 牟岐町の取り組み	2
(1)第一次推進計画・第二次推進計画の成果と課題	2
(2)第三次計画の基本理念	3
(3)第三次推進計画の目標・期間・対象者	8
第2章 子どもの読書活動を推進するための具体的な取り組み	9
1 家庭・地域における子どもの読書活動の推進	9
(1)家庭・地域の役割	9
(2)具体的な取り組み	9
(3)重点目標	9
2 保育園における子どもの読書活動の推進	9
(1)保育園の基本方針	9
(2)具体的な取り組み	10
(3)重点目標	10
3 学校における子どもの読書活動の推進	10
(1)学校の基本方針	10
(2)具体的な取り組み	10
(3)重点目標	11
4 町立図書館における子どもの読書活動の推進	11
(1)町立図書館の基本方針	11
(2)具体的な取り組み	11
(3)重点目標	12
第3章 「子どもの読書活動推進」のための支援体制	13
1 牟岐町の子どもの読書活動推進支援体制	13
2 「子どもの読書活動」推進のための情報収集と提供、体制	13

第1章 計画策定の背景・課題

1 子ども読書活動推進の意義

牟岐町では、「牟岐町子どもの読書推進計画」(第一次推進計画)を平成26年6月に、「牟岐町子どもの読書推進計画」(第二次推進計画)を平成31年4月に策定し、様々な施策に取り組んできました。その前後に国、県の関係法整備、教育諸施策も少しずつ変化しました。

【社会的背景】

テレビ、ビデオ、DVD、パソコン、スマートフォンなどの様々な情報メディア・情報媒体の発達・普及によって、生活の利便性が向上した反面、子どもたちが映像に過度に依存しすぎることに伴い、文字・活字離れが懸念されています。動画等の画面を見る時間の増加が、読書の時間を減少させることにつながっていると一概には言い切れませんが、生活習慣を見直し、時間を有効活用し、読書のメリットを意識させることが大切であると考えられます。児童サービスの対象者は、0歳からおおむね18歳までの子どもであり、様々な手段で資料を提供し、子どもの自由時間での楽しみや、健康、幸福の実現を支え、多様な知識や考え方に触れ、言葉を学ぶことを通して感性を磨き、想像力を豊かにし、ひいては将来より深く生きていくことができるように基盤整備をすることが、この計画策定の狙いと言えます。

【国・県の動き】

近年の子どもたちの活字離れ、読書離れという憂慮すべき事態を受け、国は、平成13年12月に「子どもの読書活動推進に関する法律」を施行しました。この法律は、子どもの読書活動の推進に関し、基本理念、並びに推進に関する必要な事項を定めています。これを受けて、平成14年8月に「子どもの読書活動推進に関する基本的な計画」が、平成20年3月には第二次計画が、平成25年5月には第三次計画が、平成30年4月には第四次計画が、令和5年3月には第五次計画が、順次策定されました。社会全体で子どもの読書活動の環境整備を推進していくにあたり、第五次計画においては、①不読率の低減、②多様な子どもたちの読書機会の確保、③デジタル社会に対応した読書環境の整備、④子どもの視点に立った読書活動の推進が基本的な方針となっています。

徳島県では、国の基本計画に基づいて、平成15年11月に「子どもの読書活動推進に関する基本的な計画」が策定されました。その後おおむね5年ごとに第二次計画、第三次計画、第四次計画、第五次計画と順次、計画を進めてきました。

【町の現状】

<1>平成25年4月にこども園、小、中学校を一箇所へ統合し、一貫教育の推進を図りました。

<2>小学校・中学校への図書の団体貸出を定期的 to 実施しました。<むぎっこつながる文庫>

…牟岐小学校へは、平成26年12月から1ヶ月に1学年30冊貸出、牟岐中学校へは、平成30年5月から1学年15冊貸出。年間10回～11回。

＜3＞平成27年12月から、小、中学校へ「どくしょてちょう」を配布し、読書習慣の定着を支援しましたが、教職員の異動に伴い引継ぎが十分にできていないとも考えられます。

＜4＞平成31年3月から、こども園への図書の団体貸出を毎月実施しました。(1回につき、30冊貸出)

＜5＞平成28年4月に、「学びつながり、夢あふれる生涯学習のまち“牟岐”～郷土の明日を担う人材の育成～」を基本理念とする牟岐町教育大綱が策定されました。その中で、図書館サービスの整備、充実を教育施策の一つとして取り上げ、すべての町民が生涯にわたって学び続け、充実した人生を送れ、その成果が活かされる生涯学習社会の形成に向けて、「いつでも」「どこでも」「だれでも」学びたいときに学べるよう、学習機会の拡充と学習内容の充実を図ることとされました。

2 牟岐町の取り組み

(1) 第一次推進計画・第二次推進計画の成果と課題

- ① ブックスタートは、平成18年3月より実施し、生後3ヶ月以降の赤ちゃんと保護者を対象に、親子で一緒に絵本を楽しむことの大切さを伝えながら2冊の絵本を読み聞かせ、手渡し、町立図書館の利用案内も実施しました。ブックスタートから、おはなし会への参加、町立図書館の利用へどのようにつなげるのかが課題と言えます。
- ② 小、中学校では、朝の読書活動や休み時間の読書活動が行われています。「むぎっこつながる文庫」として、牟岐小学校へは、平成26年12月から年間約10回、1学年につき30冊の定期的な団体貸出が行われています。また、牟岐中学校へは、平成30年5月から、年間約10回、1学年につき15冊の定期的な団体貸出が行われています。また、増大する教職員の業務を支えるため、随時、学校からのリクエストに応じています。今後は、家庭での読書の生活化が課題と言えます。
- ③ 平成27年12月から、小、中学校へ「どくしょてちょう」を配布して、読んだ本を記録し、感想を書き込むことができるようにしましたが、教員の人事異動等により、引継ぎがされていない可能性があるため、PRを強化していく必要があります。
- ④ 平成26年度から、セカンドブック事業として、小学校1年生に夏休みの課題図書の贈呈をおこないました。また、平成30年度からは、サードブック事業として、中学校1年生に夏休みの課題図書の贈呈をおこないました。夏休み期間中の子どもを支援するため、今後も贈呈を続けていきたいと考えています。また、感想文の書き方の本を図書館に複数所蔵するようにし、書く技術を高めてもらえるような蔵書

構成を意識していきたいと思います。

- ⑤ 平成27年4月から、町立図書館にヤングアダルトコーナーを設け、思春期である13歳からおおむね18歳の世代に読んでもらいたい本を集めてあります。様々な葛藤や、友人関係、異性との関係で悩むことも増える世代に、読みやすい本(例えば、人生論、幸福論、知識の本、希望を与えられる本など)があることを子どもと保護者へさらに周知していきたいと考えています。また、子どもの居場所作りとして、グループ閲覧席の設置など、利用しやすい環境を整えていきたいと考えています。
- ⑥ ファミリーサポートセンターへの団体貸出を行い、学校以外での読書活動の生活への定着を支援しました。
- ⑦ 「むぎっこつながる文庫」として、こども園に、平成31年3月から、毎月30冊の定期的な団体貸出を開始しました。日々成長する子どもたちが、適切な時期に適切な本と出合えるよう、今後も支援していきます。
- ⑧ 小学生の職場見学や中学生の職場体験を、学校のカリキュラムに合わせてできるだけ受け入れをし、未来を生きる子どもたちに図書館の実務を知ってもらい、図書館職員や来館者との交流を通じて、小中学生の日常を知り、信頼関係を築き、図書館を身近に感じてもらえるよう努めていきます。
- ⑨ 年2回の古紙回収を、5月と11月に行っており、古紙回収収益金を、保育園や小中学校で必要な本の購入に役立てており、町民全体でSDGsに取り組んでいます。
- ⑩ 「むぎとしょマルシェ」を年に1～2回開催し、図書館のPRと、すべての年代が集まり楽しめる場作りを行っています。マルシェのイベントの中に、子どもや親子で楽しめる企画も取り入れていく予定です。
- ⑪ 図書館カウンターにブックガチャを置き、幼児や小学生が楽しみながら季節に合った絵本を気軽に手に取ってもらえるようにしています。

(2)第三次計画の基本理念

第三次推進計画策定に当たり、令和5年12月に「牟岐町子どもの読書活動に関するアンケート調査」を実施し、課題を検証しました。

読書への興味・関心には個人差があり、学校種の変更時に、読書量や読書時間の減少が見られます。しかしながら、保育士、教職員、読み聞かせボランティアのそれぞれの努力により、保育園や学校の本は、図書館と同等またはそれ以上に利用しやすいとの回答傾向も見られ、今後も関係者と連携し、また、保育園や学校のカリキュラムを大切にしながら、他の活動との兼ね合いも考えつつ、自発的で主体的な読書活動となるよう支援することが大切であると考えられます。読書への興味・関心の低い子どもたちに対しては、本を読む喜びや楽しさを伝え、読書意欲の向上につながるように、家庭・学校・地域住民等がそれぞれの立場から読書活動の魅力、素晴らしさをこれまで以上に伝えることが望まれます。

また各学校において、学年が進むにつれ、調べ学習等において、インターネット検索が主流になってきている傾向があります。子どもと保護者に、情報リテラシーについて学んでも

らう必要も出てきました。

乳幼児期には、読み聞かせなどを通して、親子や祖父母との豊かな関係を持ってもらうことがまず重要で、子どものペースに合わせて、たべものや生きもの、動物、自然、言葉遊び、リズム遊び、わらべうたなどを題材にすることが多い時期だと言えます。家庭内だけでは揃えられない多様な資料が所蔵されていることが公共図書館の魅力だと言えます。また、公共図書館には絵本コーナーがあり、広々とした空間を提供しています。

小学校低学年までは、子どもたちが心おきなく軽読書ができる環境を作ってやるのがまず大切で、読み手への信頼を得られるようにするべきであり、その後も発達段階に応じて、寓話、童話、児童文学、民話、伝記、詩、知識の本など、幅広い本に触れることで本の楽しさが分かり、視野を広げ、社会性を身に付けていくことができるような本に触れることができるよう、団体貸出の本を選書していく必要があると考えられます。読書が嫌いになってしまわないような軽めの本も時には取り入れ、何を読んでいいかわからないという子どもには、ブックリストやどくしょてちょうを手渡す、また自分から読みたくなるまで根気強く待つという大人の姿勢も大切になってきます。また、小中学生の居場所としての図書館という点も考えていかなければなりません。

小、中学校、こども園、おはなしの会「さざなみ」、ファミリーサポートセンター、その他ボランティア団体、NPO 団体等と連携し、次世代の人材育成を図りながら、読書環境の整備と充実を図っていきます。

また、保育園や小中学校、ファミリーサポートセンターへの団体貸出については、各団体の実情に柔軟に対応するようにし、よりよい選書を行うとともに、保育士や教職員のニーズにも幅広く対応し、業務の負担軽減を図ることも考えていきたいと思います。

本計画を進めていくにあたっては、PDCA サイクル、OODA ループ、PDR サイクルの視点を取り入れていきます。

※Plan, Do, Check, Action・Observe, Orient, Decision, Act・Prep, Do, Review…計画・評価・改善の手法

【アンケート結果】(※年長児童、小学生、中学2年生とその保護者を対象)

【1】「本を読むのは、好きですか」 好き、どちらかといえば好きと答えた割合

学年	好き	どちらかとい えば好き	どちらでもな い	どちらかとい えばきらい	きらい	無回答
年長児	62.5%	12.5%	0%	12.5%	12.5%	0%
小1	15.4%	46.2%	7.7%	15.4%	7.7%	7.7%
小2	30%	10%	30%	20%	10%	0%
小3	28.6%	14.3%	42.9%	0%	14.3%	0%
小4	25%	12.5%	43.8%	18.7%	0%	0%
小5	35.7%	28.6%	28.6%	0%	7.1%	0%
小6	0%	42.8%	28.6%	28.6%	0%	0%
中2	12.5%	8.3%	29.2%	29.2%	16.7%	4.1%

【2】読むのが「どちらかといえばきらい」「きらい」という理由は何か(複数回答有)

学年	字を読むのが苦手	面白くない	めんどろ	ゲームや他のことをしたい	読みたい本がない	その他	無回答
年長児	0%	12.5%	0%	12.5%	0%	0%	0%
小1	15.4%	0%	7.7%	0%	7.7%	0%	7.7%
小2	0%	10%	10%	0%	10%	0%	0%
小3	14.3%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
小4	0%	0%	12.5%	12.5%	0%	0%	0%
小5	0%	7.1%	0%	0%	0%	0%	0%
小6	0%	0%	0%	28.6%	0%	0%	0%
中2	4.1%	4.1%	29.2%	12.5%	4.1%	0%	0%

【3】一日の読書時間はどれくらい(自分で読む・読んでもらう)

学年	0分	30分未満	30分～ 1時間未満	1時間～ 1時間30分	1時間30分 未満	無回答
年長児	12.5%	75%	12.5%	0%	0%	0%
小1	15.4%	46.2%	30.8%	0%	0%	7.7%
小2	30%	60%	10%	0%	0%	0%
小3	0%	85.7%	14.3%	0%	0%	0%
小4	12.5%	75%	6.3%	0%	0%	6.3%
小5	14.3%	64.3%	21.4%	0%	0%	0%
小6	71.4%	28.6%	0%	0%	0%	0%
中2	62.5%	29.2%	4.1%	0%	0%	4.1%

【4】1か月のうち何冊ぐらい本を読むか

学年	0冊	1～5冊	6～10冊	11～15冊	16～20冊	無回答
年長児	0%	62.5%	12.5%	12.5%	12.5%	0%
小1	0%	69.2%	7.7%	0%	7.7%	15.4%
小2	30%	40%	10%	0%	20%	0%
小3	0%	71.4%	28.6%	0%	0%	0%
小4	18.7%	50%	12.5%	12.5%	0%	6.3%
小5	7.1%	50%	28.6%	7.1%	7.1%	0%
小6	42.9%	57.1%	0%	0%	0%	0%
中2	45.8%	33.3%	12.5%	0%	0%	8.3%

【５】テレビ・スマホ・ゲームなどを見る時間は一日どれくらいか

学年	見ない	３０分未満	３０分～１時間未満	１時間～２時間未満	２時間以上	無回答
年長児	0%	0%	25%	50%	25%	0%
小１	0%	0%	7.7%	46.2%	38.5%	7.7%
小２	0%	0%	20%	30%	50%	0%
小３	0%	14.3%	0%	71.4%	14.3%	0%
小４	0%	0%	6.3%	37.5%	56.2%	0%
小５	0%	0%	0%	28.6%	71.4%	0%
小６	0%	0%	14.3%	28.6%	57.1%	0%
中２	8.3%	4.2%	4.2%	20.8%	58.3%	4.2%

【６】分からないことや、知りたいことをどんな方法で調べますか(複数回答有)

学年	家族に聞く	先生に聞く	友達に聞く	インターネットで調べる	本で調べる	その他	無回答
年長児	58.3%	25%	0%	0%	16.7%	0%	0%
小１	76.9%	38.5%	38.5%	15.4%	7.7%	0%	7.7%
小２	90%	30%	20%	10%	40%	0%	0%
小３	85.7%	57.1%	28.6%	28.6%	14.3%	0%	0%
小４	68.8%	6.3%	0%	31.3%	0%	12.5%	0%
小５	50%	42.8%	7.1%	50%	7.1%	7.1%	0%
小６	71.4%	28.6%	14.3%	71.4%	14.3%	0%	0%
中２	25%	12.5%	33.3%	70.8%	8.3%	4.2%	8.3%

【７】牟岐町立図書館は利用しやすいか

学年	はい	いいえ	どちらでもない	分からない	無回答
年長児	75%	12.5%	0%	12.5%	0%
小１	46.2%	0%	0%	46.2%	7.7%
小２	70%	0%	20%	10%	0%
小３	57.1%	0%	14.3%	28.6%	0%
小４	68.8%	6.3%	0%	25%	0%
小５	71.4%	0%	0%	28.6%	0%
小６	71.4%	0%	28.6%	0%	0%
中２	37.5%	0%	20.8%	37.5%	4.2%

【8】学校や保育園の本は利用しやすいか

学年	はい	いいえ	どちらでもない	分からない	無回答
年長児	62.5%	0%	12.5%	12.5%	12.5%
小1	69.2%	7.7%	0%	15.4%	7.7%
小2	90%	0%	0%	10%	0%
小3	57.1%	14.3%	28.6%	0%	0%
小4	75%	0%	12.5%	0%	12.5%
小5	78.6%	0%	7.1%	14.3%	0%
小6	71.4%	0%	28.6%	0%	0%
中2	37.5%	0%	33.3%	25%	4.2%

【9】お子さんに読み聞かせをしていますか【小学生以下の保護者のみ回答】

学年	よくしている	時々している	ほとんどしていない	無回答
年長児	12.5%	50%	37.5%	0%
小1	7.7%	30.8%	30.8%	30.8%
小2	10%	40%	20%	30%
小3	0%	42.9%	28.6%	28.6%
小4	0%	37.5%	50%	12.5%
小5	7.1%	14.3%	64.3%	14.3%
小6	0%	14.3%	57.1%	28.6%

【10】自宅に子どもの本はどれくらいありますか【小学生以下の保護者のみ回答】

学年	5冊以下	6冊～10冊	11冊～15冊	16冊～20冊	21冊以上	無回答
年長児	0%	25%	0%	25%	50%	0%
小1	15.4%	15.4%	7.7%	15.4%	15.4%	30.8%
小2	0%	10%	0%	0%	60%	30%
小3	0%	14.3%	28.6%	0%	14.3%	42.9%
小4	12.5%	18.7%	0%	6.3%	50%	12.5%
小5	14.3%	14.3%	14.3%	0%	42.8%	14.3%
小6	14.3%	0%	0%	14.3%	42.8%	28.6%

(3)第三次推進計画の目標・期間・対象者

最新の国の「子供の読書活動推進計画」では、不読率の低減、多様な子どもたちの読書環境の整備、デジタル社会への柔軟な対応、子どもの視点に立った読書活動の推進が留意点として掲げられております。

牟岐町においても、これまでの読書活動推進のあり方が真に地域の特性に合ったものであったのかを見極め、今後の推進計画に反映させていきたいと考えています。

乳幼児からの読み聞かせは、子どもの豊かな情操を育むのに有効な手段であり、子どもたちの健やかな成長を願うものです。また、子どもの頃に培った読書習慣は、言語能力、表現力、想像力など、人生をよりよく生きるために必要な様々な力を育てます。また、読書には、自分自身の内面的な成長を促し、自己肯定感を高めるという特性もあることを踏まえ、子どもの最善の利益を追求するということを、子どもの読書活動に携わるすべての者が、共通認識の上に立つ必要があります。

現在、子どもたちを取り巻く環境には、読書環境が十分でない子どもの存在も見受けられます。共働き世帯や核家族化などにより、子どもと過ごす時間が十分に取れていない面もあるかもしれません。また、情報機器の発達により、読書離れがより進行し、自分で文章の意味を理解したり、読み解くという行為が、大人も子供も不十分なのではないかという懸念もあります。

保護者や周囲の大人が、子どもたちがどのようなことで困っているか、どのようなことを手助けしてもらいたいと思っているか、さらにはどんなふうに成長してもらいたいのか、ということをこれまで以上に考え、できるだけ配慮をしていく必要があります。

読書活動を推進していくために、子どもたちに、読書によって得られるメリットを意識させ、習慣化し、環境整備・体制を整えていくことがさらに求められていることを踏まえ、この計画を策定するものです。

計画の期間は、令和6年度から10年度までとし、対象者は、0歳からおおむね18歳以下のすべての子どもとしています。

第2章 子どもの読書活動を推進するための具体的な取り組み

1 家庭・地域における子どもの読書活動の推進

(1) 家庭・地域の役割

乳幼児期からの家庭での読み聞かせは、子どもの読書習慣の形成に大きく役立ちます。小さいころから家庭での読み聞かせを通しての親子や祖父母とのスキンシップは、読書習慣のためだけではなく、家族の絆を深めることにもつながり、健やかな成長を願い、将来にわたって心豊かに生きていく基礎となるものです。

保護者や身近な大人が、読書を楽しんでいる姿を見せることが求められます。地域においても、図書館でのブックスタート、読み聞かせ会や、親子で楽しめる催しを工夫する必要があります。

(2) 具体的な取り組み

①ブックスタート事業の実施

年に数回、図書館で生後3か月の赤ちゃんに対して、絵本2冊の贈呈と読み聞かせを継続的に行っています。

②図書館でのおはなし会の開催

毎月約2回のおはなし会と、年に数回の特別なおはなし会(例:文化祭のおはなし会など)を開催し、テーマに沿った絵本、民話、昔話、紙芝居、エプロンシアターなどを活用して、絵本等の楽しさや、同年代や異世代の子ども同士のふれあいの環境を整えています。

(3) 重点目標

ブックスタートから、おはなし会への参加、図書館利用へとつなげていけるよう、保護者への啓発を行います。また、子どもと大人が一緒に家読(うちどく)をし、ノーゲーム、ノーテレビデーを作り出すようになってもらうよう、意識づけを図ります。

2 保育園における子どもの読書活動の推進

(1) 保育園の基本方針

乳幼児期に大人が語りかける言葉は、子どもたちが言葉を覚えていくことに大きく関係しています。現在、子どもたちの周りには、テレビやゲーム、スマートフォンといった情報機器が溢れていますが、それらから一方的に流れてくる言葉によって言語を習うことはできず、生身の大人の語りかけやそれに対しての笑顔など、双方向性のあるコミュニケーションが子どもたちの脳の発達において、非常に重要だと言えます。

たべものや自然、乗り物に関する赤ちゃん絵本、ことばあそびの絵本、かずの絵本、しかけ絵本や大型絵本、紙芝居、エプロンシアターなど、子どもたちが楽しみながら夢中になるような本に触れることができるよう、保育士が子どもと保護者の思いに寄り添った保育を心がけています。

(2) 具体的な取り組み

- ① 絵本の読み聞かせを通して、多くのことに関心を持ち、豊かな感性を育み、感情の表現や共感力を育てるようにしていきます。
- ② 読み聞かせを継続して行い、日常生活の中にいつも本があるような環境を整えます。
- ③ 保育士が研修を行い、読み聞かせ能力の向上に努めます。
- ④ 図書館と連携をし、団体貸出により、多様な種類の絵本等に子どもが親しめるように努めます。

(3) 重点目標

町立図書館とのさらなる連携を図ります。また、保育士と子どもたちが1対1やグループで読み聞かせを楽しみ、まずは手助けをしてもらいながら本に親しみ、次第と自発的に読むようになるよう発達段階に合わせて一人一人を見守ります。また、保護者との家読(うちどく)を啓発します。

3 学校における子どもの読書活動の推進

(1) 学校の基本方針

小学校低学年から中学年までは、絵本や寓話、昔話、民話、おとぎ話、紙芝居、エプロンシアターなど、子どもの好奇心に合わせた本を子どもの成長のペースに合わせて保護者や先生などからの助けも借りながら、できるだけ多くの本に触れさせてやるべき時期です。

小学校の中学年頃からは、情報機器に触れる機会も多くなりますが、自分でしっかりと考える、伝えるということの大切さも伝えていくため、朝の読書活動を習慣づけることが大切になってきます。

言語能力が、すべての学力の基礎であることに鑑み、発達段階に応じた多様な本(例：絵本、児童文学、伝記、生物記、随筆、ルポルタージュ、知識の本など)に触れることができるよう環境整備し、学校種間の切れ目がないよう、小・中一貫教育の強味を活かし、児童・生徒一人一人のニーズに対応した支援を行っていきます。また読書が嫌いになってしまわないよう、休息の時間も取るようにし、根気強く子どもたちを見守っていきたいと考えています。

(2) 具体的な取り組み

- ① 読書活動の時間に、静かな環境を作り、読書に集中できるように努めます。
- ② 支援の必要な児童・生徒に対して、十分な配慮を行い、すべての子どもが読書に親しめるよう教員の連携を図ります。
- ③ 学校図書館の充実を図るよう努めます。
- ④ 図書館と連携をし、団体貸出により、多様な種類の絵本等に子どもが親しめるように努めます。
- ⑤ ボランティア団体と連携し、読書タイムの時間を充実させるよう努めます。

(3)重点目標

町立図書館やとさらに連携を図ります。また、読書活動を習慣化させます。発達段階や、個人の嗜好に応じて、楽しみながら自発的に読書に取り組むようになるよう、支援します。
調べ学習や補助教材として図書資料を活用することを学びます。

4 町立図書館における子どもの読書活動の推進

(1)町立図書館の基本方針

町立図書館は、すべての町民が、読みたい時にいつでも気軽に本を利用することのできる最も親しまれた社会教育施設です。特に、子どもたちの読書活動を持続的に支援していくにあたっては、中心的な役割を担っています。また、クラッシュェンの唱えた「自由読書」という観点に立つと、「自由読書」は、語彙力、文法力、作文力、聞き取る力を身に着けるのに非常に有効であり、公共図書館という自由な空間を提供することが、学びとレクリエーションの双方に役立つと考えられます。

町立図書館では、子どもの発達段階に対応した多種多様な資料を揃えてあり、個人や団体への貸し出しを行い、年間を通じて親子や三世代で楽しめる講座の開催を行っています。

(2)具体的な取り組み

①ブックスタート事業の実施

年に数回、図書館で生後3か月の赤ちゃんに対して、絵本2冊の贈呈と読み聞かせを継続的に行っています。親子のふれあいを支援し、図書館の利用案内も指導しています。

②おはなし会の開催

乳幼児とおおむね小学校中学年までを対象に、読み聞かせボランティアによる毎月約2回のおはなし会と、年に数回の特別なおはなし会を開催しています。絵本や紙芝居の楽しさを参加者全員で分かち合い、図書館に慣れ親しんでもらうことを目的としています。

③ファミリーサポートセンターとの連携

放課後の子どもの居場所作りを支援するために、団体貸出を行っています。

⑤ むぎっこつながる文庫

保育園と小学校、中学校へ毎月の団体貸出を継続的に行っています。朝の読書活動を支援し、楽しみながら学ぶことや読書離れをいかに食い止めるかを考えながら、図書館職員全員での選書を行っています。

⑥ ブックガチャ

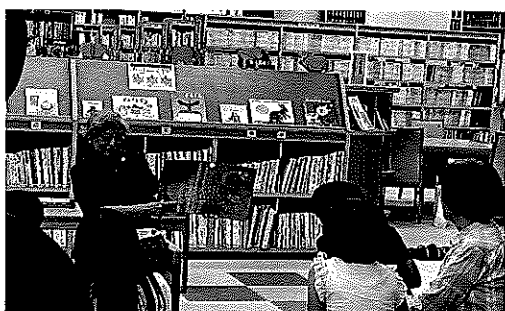
図書館カウンターに、幼児や小学生向けのブックガチャを置き、気軽に季節に合った絵本に出会えるようにしています。

⑦ 「調べ学習」に必要な蔵書の充実

小・中学校における学習の中には、「調べ学習」が組み込まれています。サブテキストとして学習を深化させることのできる本や視聴覚資料の整備を行い、スムーズに学校や個人へ提供できるよう努めます。

(3) 重点目標

子どもたちが発達段階に応じて「自由読書」を楽しめるよう、図書館の環境整備を行います。また、団体貸出の本の選書は、子どもの発達段階に合わせた多種多様なものを揃えるように継続的に取り組んでいきます。また、図書館での親子向けワークショップなどへの参加により、図書館を気軽に利用してもらえるよう努めます。子どもの日常を知り、子どもの居場所として、読書や勉強に集中できたり、時にはリラックスしたり、多様な楽しみ方や学び方が確保されるようにハード面・ソフト面の両面を工夫し、日々の業務から真に必要なニーズを吸い上げるよう努力し、図書館の明るく温かな印象付けを行っていきます。



図書館での夜のおはなし会



親子工作教室と新聞紙シアター



ブックスタートと中学生の職場体験



「さざなみのたな」で自分で本を選ぶ児童

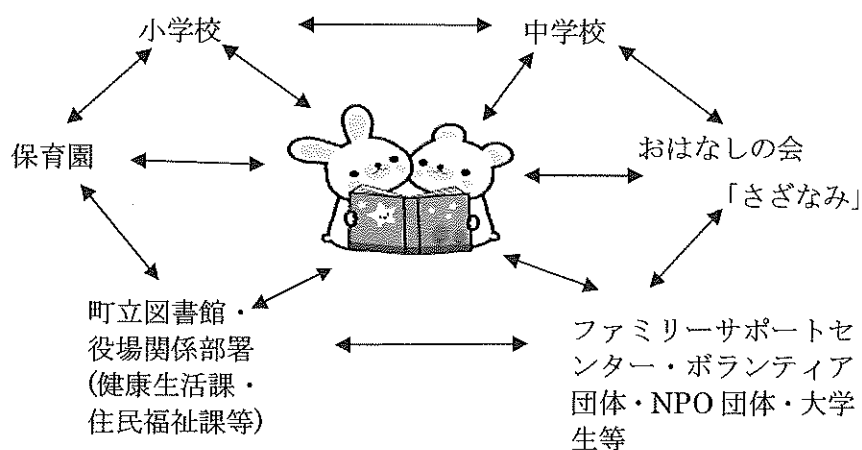
第3章 「子どもの読書活動推進」のための支援体制

1 牟岐町の子どもの読書活動推進支援体制

すべての子どもが、自主的に読書活動に取り組むことができるよう、本町においては、家庭・地域・学校・図書館などといった社会教育施設、ボランティア団体、NPO 団体等が相互に協力・連携しながら「子どもの読書活動推進ネットワーク」を形成しています。

現代的な子どもの読書活動支援のためのネットワークとして、次世代育成も考えながら、今後も各団体が互いに協力しながら読書活動の推進を図っていきます。

子どもの読書活動推進ネットワーク・イメージ図



2 「子どもの読書活動」推進のための情報収集と提供、体制(学社連携・学社融合)

【現状と課題・具体的な取り組み】

- ① 牟岐町立図書館では、窓口や「としょかんだより」、図書館ホームページ、牟岐町公式ライン、チラシ等を通じて、図書資料やワークショップ、地域の情報を広く紹介しています。
- ② 図書館が中心となり、役場関係部署、保育園や小中学校、ボランティア団体、ファミリーサポートセンター等が、相互に協力・連携して、古紙回収やその他の取り組みに、共通理解のもとに取り組んでいきます。図書館員が、子どもたちのためによりよい選書を心がけ、牟岐町の実情に適した蔵書構成を意識して業務に取り組めます。
- ③ 「子ども読書の日」や「子どもの読書週間」への取り組みを、図書館とおはなしの会が協力しながら、取り組みを継続します。
- ④ 子どもの読書活動においては、二極化が進んでいるようにも見受けられますが、子どもの最善の利益を確保することを、子どもに携わる周りの大人が意識し、必要な手立てを講じるような社会的気運を高めるよう、図書館や教育委員会が中心となって、調査や情報発信等を行い、生涯学習の振興を図っていきます。

- ⑤ 図書館や社会教育部局等による企画展や、各種の講演会などを通じて、地域資料などに関心を深めることができるような環境・体制の構築に努めます。
- ⑥ 生涯学習という立場から学校教育を捉えると、学校教育は自ら学ぶための基本的な資質や能力を育む場であり、学校教育後も獲得された資質や能力を基礎とし、引き続き終生学び、豊かな人生をおくるという関係性があります。また、子どもたちは、学校内学習だけではなく、社会からの影響にも常にさらされていることを考慮すれば、家庭での学びの実態把握もする必要があると考えられ、今回の計画策定にあたり「事前アンケート」を実施しました。教育基本法や社会教育法にも、学校、家庭及び地域住民の連携が謳われていますが、住みやすい地域を実現するためには、能動的で経験豊かな地域住民の協力が必要で、生涯にわたる学習成果を地域に還元するという視点が必要になります。また、学校教育と社会教育が両方の要素を重ね合わせ、補い合い、一体となって子どもたちの教育に取り組んでいくことがよりいっそう求められています。〈学社連携・学社融合〉日頃から、学校、地域、家庭において、それぞれの立場で子どもたちの観察を今後も継続的に行い、読書活動を支援する環境作りに努め、子どもたちの主体的な深い学びを支援していきます。